

# 文書館開館5周年記念講演会 幕末の常陸大宮

文書館は平成26年10月の開館から5周年を迎えました。これを記念して、文書館開館5周年記念講演会「幕末の常陸大宮」を緒川総合センター文化ホールで開催しました。

文書館の業務のひとつである地域史料の普及活動の一環として当館が開館以来取り組んでいるものの中に市内に所在する古文書の刊行（『常陸大宮市近世史料集』）事業があります。豊富に残されている幕末から明治にかけての時期の古文書を通して、市域の幕末維新时期について考える目的で、2人の講師に講演をいただきました。

茨城県立歴史館特任研究員で常陸大宮市史近世史部会専門調査員の永井博さんからは「徳川斉昭の藩政改革」と題して、斉昭が主張した攘夷論や宗教統制など、庶民にも影響を及ぼした大胆な藩政改革の真の目的について、『常陸大宮市近世史料集』を含むさまざまな史料からご紹介いただきました。



▲永井博さん



▲熱心に耳を傾けていました

当館調査研究員の野上平さんは「関沢家日記から読みとく幕末維新期の常陸大宮地方」と題して、野口村の富商・関沢家の当主が代々書き続けた日記の内容を精査し、藩士、郷土、領民が改革派と門閥派に分かれて争うこととなった幕末維新期の村内の状況や関沢家の社会生活についてお話をされました。

関沢家の日記については現在も史料集の刊行が継続中で、新たな情報も交えたお話しで、参加された皆さんは熱心に聴講されていました。本市域の幕末維新期の混乱した状況を古文書から具体的に読みとることができただけでなく、古文書の持つ内容の豊さも感じる事ができたのではないのでしょうか。



▲野上平さん

文書館では、このような古文書史料の所在を確認し、調査を行うとともに、今後も講演会などを通して皆さんに歴史や史料に触れていただく機会を設けていきます。古文書等の史料をお持ちの方は、調査にご協力ください。また、文書館では歴史的公文書と古文書等の地域史料を閲覧・複写・撮影することができます（一部に利用制限があります）。

当館は、開館から5年を迎えた現在も県内市町村では唯一の文書館施設（アーカイブズ）です。公文書の適正な保存・管理や地域史料の散逸防止が叫ばれる現在、民主主義の根幹を担う施設として文書館の役割はたいへん大きなものになっています。皆さんのご利用をお待ちしています。

■問い合わせ■ 文書館 ☎52-0571